



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第42号
令和3年4月26日

令和3年度がスタートします!!

出会いの花咲く
出会いの場を!!

令和3年度になりました。コロナ禍ではありますが、本事業に関わっていただける皆様のスタートはいかがでしょうか？一日も早いコロナ禍の収束を祈りつつ今年度もこの事業だよりを発行していきたいと思ひます。お読みいただき少しでも活動の参考になれば幸いです。

＝4月5日(月)地域学校協働活動推進員委嘱状交付式＝



【教育長の挨拶より抜粋】

地域と学校との緊密な連携・協働のもと、校区の連帯感を高め、子どもたちの成長にとって何が重要であるかを地域で共有し、学校を核とした地域づくりに取り組んでいただきたい。

4月5日(月)は令和3年度の地域学校協働活動推進員委嘱状交付式でした。教育長からは、上記のような挨拶がありました。推進員さん方がこの事業のキーパーソンです!!ご苦労をおかけするとは思いますが、どうかよろしくお願い申し上げます。今年度もコロナ禍の中での事業推進となることでしょう。学校の経営方針をもとに安全安心に留意し、地域との連携協働は勿論ですが、22人の推進員さん、2名の放課後子供教室コーディネーターさん、21の学校、そして本部事務局がそれぞれに連携協働し尚一層の充実を図ってまいりましょう。

新年度のスタートにあたり、昨年度末に「今後の課題」として見えてきた事柄に触れてみたいと思ひます。



本事業を知っていただく！ そして、力を貸していただく！

昨年度の「令和2年度玉名市地域学校協働活動実施報告書」や「令和2年度第2回玉名市地域学校協働本部運営委員会」の記録等を読みますと、「地域人材を発掘しよう」に類する文言をよく目にします。また、活動に際して「地域学校協働活動っていったい何?」「地域学校協働活動推進員って何するの?」という反応に、「まだまだ市民の皆様はこの事業が知られていないな」と感じられた推進員さんも多いのではないのでしょうか?それらを解消していくために、本部事務局では下の事業を展開する予定です。



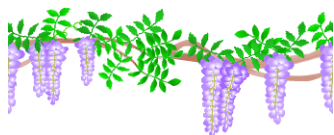
- ①中学校区ごとに地域住民の代表者への説明会を開く。
- ②地域ボランティアを募集し、地域ボランティアバンクを充実・更新し、活用する。
- ③事業だより「人を育て 地域を創る」、市ホームページ、市広報誌等を活用して情報を発信する。
- ④学校、PTA、社会教育関係団体、自治会等のネットワークを活用して周知を進める。
- ⑤ハンドブックや参考資料・事例集を活用した地域住民や学校関係者への普及啓発、理解の促進を図る。

裏面あり

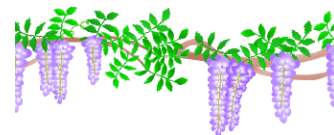
年間計画が必要だ！ そして、見通しを持って事業を推進しよう！

前出の「令和2年度玉名市地域学校協働活動実施報告書」によりますと、「年間活動計画」の必要性も「今後の課題」の中にたくさん出されていました。いくつか紹介します。「地域学校協働活動」と「学校運営協議会」を両輪に、「社会に開かれた教育課程」をその両輪をつなぐ車軸として展開してまいりましょう。

- 地域の課題に対して学校が取り組むことができるものを、学校教育活動の一部に位置付けして計画的に取り組んでいく必要がある。
- 授業や行事等に必要なボランティアを事前に聞き出し計画的に組み込んでいく必要がある。
- 計画的に実施する必要があるでしょうが、突然お願いすることもあり、申し訳ない気持ちでいっぱいです。
- 地域への依頼を年度初めに計画しておく必要がある。
- 今年度の活動をもとに、年間を通じて計画的に活動を行えるよう企画立案することが必要である。
- 年間指導計画を見直して、どの指導内容を誰に支援していただくのかを計画の中に位置付ける必要がある。
- 「社会に開かれた教育課程」についてより深く理解し、地域学校協働活動の取組は地域と学校のそれぞれが当事者であることを意識しながら、取組を継続していかなければならない。



連絡とお願いです!!
よろしくお願いします!!



◇昨年度末、地域学校協働活動実施報告書の原稿作成をお願いしましたところ、ご多用の中、ご協力をいただきありがとうございました。冊子にまとめましたので3月末に推進員さん、本部運営委員さん、学校に届けております。冊子には、コロナ禍の中、安全安心に留意しながらも前向きに地域学校協働活動に取り組んでくださる皆様の知恵と汗がギッシリと詰まっています。令和2年度をまとめた冊子ですが、その内容を見ると、すでに令和3年度の道筋が見えてくるようです。活用をお願い申し上げます。

◇地域学校協働活動実施報告書とともに地域ボランティアバンクの作成のためにデータを送っていただき、ありがとうございました。おかげで令和3年度版が出来上がりました。ただ、個人情報漏洩防止の観点から、冊子にしての配布は致しません。ニーズがあれば本部事務局(75-1312)まで連絡してください。ニーズに合った方を登録している学校と連携して情報を発信します。すでに4月に2件の問い合わせがあり、繋げることができました。ご理解、ご協力、ご利用の程よろしくお願い申し上げます。

◇人材の発掘・確保が大きな課題です。今年度は本部事務局からも玉名市全体に、ホームページ及び6月の広報誌で地域ボランティアの募集を行います。各校区の地域ボランティアバンクと併せて充実させていきたいと思います。

◇6月17日(木)に「推進員・地域連携担当職員合同会議」を開催する予定です。県のコーディネーターを講師に招聘し、持ち寄っていただいた各校の地域学校協働活動年間活動計画をベースに、より具体的で実践的な研修を行いたいと考えております。ご多用かとは思いますが、是非参加してくださいませようお願い申し上げます。案内文書は後日改めて発送します。

○日時:6月17日(木)10:00～(90分程度)

○会場:玉名市文化センター 大会議室

○対象:玉名市地域学校協働活動推進員

玉名市各小・中学校地域連携担当職員





人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第43号
令和3年5月7日

春風や 闘志いだきて 丘に立つ (高浜虚子)

昨年の5月の事業だよりにもこの句を紹介し、「苦難の時期を乗り越え、草原の丘に立ち、温かく穏やかでありながらも爽やかさを感じる春の風を受けながら、強い決意を抱き、凛とした姿で未来を見つめている・・・そのような情景が浮かんできます」と書いています。

現在、市内小・中学校の一斉休校はないものの、1年経った今でも新型コロナウイルス感染の収束は見えてきません。厳しい状況です。この閉塞感をなんとか吹き飛ばしたいものですが・・・。

4月「卯月」「April」から5月「皐月」「May」「早苗月」「多草月」へ。新緑の候、風薫る爽やかな季節がやってきました。みずみずしい若草を渡る風に、夏の訪れも感じます。5日は「立夏」、春分の日と夏至の中間。4月の柔らかく暖かい陽ざしとはちょっと違って、明るさや輝きが増し、夏に入ります。

吹き流し 五月の風を 蹴りに蹴る (山口誓子)



学校運営協議会との連携

今年度より玉名市内全小・中学校に学校運営協議会が設置されます。これまで全中学校6校と玉名町小、横島小、玉陵小の3校、計9校に設置されていましたが、他の小学校15校は今年度から学校評議員会から移行されていきます。学校運営協議会との連携による効果について次のような説明があります。

地域住民や保護者の意見を反映させる仕組みとして学校運営協議会が設置されている学校（コミュニティ・スクール）では、地域学校協働本部と学校運営協議会の双方が機能することにより、次のような効果が期待されます。

- 学校運営の改善と連動した地域学校協働活動の推進
- 地域と学校の組織的・継続的な連携・協働体制の確立
- 子供の教育に関する課題や目標等の共有による当事者意識の高まり

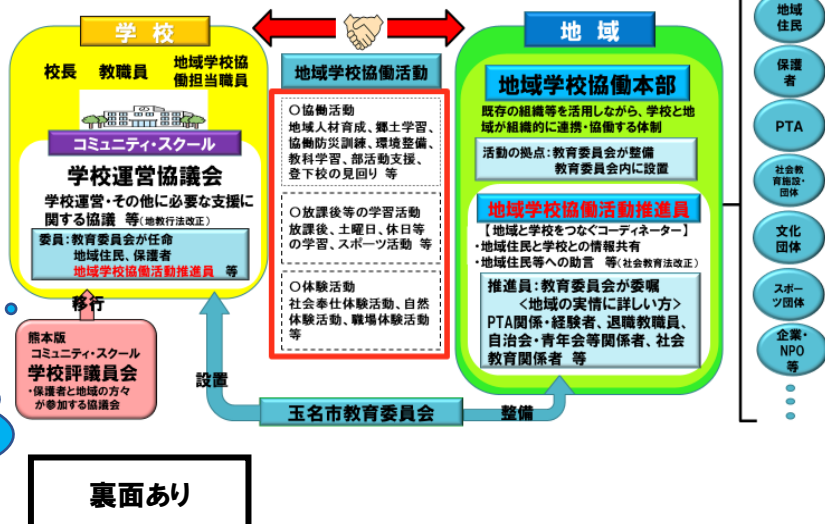
つまり、コミュニティ・スクールにおいてこそ、地域学校協働活動を進めていくことが必要であり、**学校運営協議会の機能と地域学校協働活動が両輪**となって学校を動かしていくことで、「地域とともにある学校づくり」が実現できるのです。

「地域学校協働活動ハンドブック」文部科学省より

平成29年3月に地方教育行政法が改正され、学校運営協議会では学校運営に関する協議だけではなく、**学校運営への必要な支援についても協議**することになりました。そのため、**学校運営協議会委員として地域学校協働活動推進員等を追加する**、協議結果に関する情報を地域住民等に提案するなど、制度の見直しが行われました。これによって、学校運営協議会と地域学校協働活動をつなげる環境が整いました。

「学校」と「地域」の両方に
「地域学校協働活動推進員」が
入っているのがポイントです!!

玉名市における「地域と学校の連携・協働」の姿



事業だより「人を育て地域を創る」発行計画

発行予定	内 容
4月号（4月下旬）	事業の概要 等
5月号（5月上旬）	事業の概要 等
6月号（6月上旬）	事業の概要 等
7月号（7月上旬）	放課後子供教室の活動紹介
8月号（8月上旬）	天水中校区（玉水小、小天小、天水中）の活動紹介
9月号（9月上旬）	岱明中校区（大野小、睦合小、鍋小、高道小、岱明中）の活動紹介
10月号（10月上旬）	有明中校区（大浜小、豊水小、横島小、有明中）の活動紹介
11月号（11月上旬）	玉陵中校区（玉陵小、玉陵中）の活動紹介
12月号（12月上旬）	玉南中校区（八嘉小、伊倉小、玉南中）の活動紹介
1月号（1月上旬）	玉名中校区（玉名町小、築山小、滑石小、玉名中）の活動紹介
2月号（2月上旬）	年間の総括的内容
3月号（3月上旬）	年間の総括的内容

寄せられた情報等をもとに事業だよりは作られます。よろしくお願いします!!

- ① 各校区の活動の様子を事業だよりで紹介していきたいと思います。活動の様子を写真に撮り、写真のタイトル（〇年生の～、◇◇の学習、☆☆の時間、△△活動等）や子供、地域ボランティア、地域学校協働活動推進員、担任や地域連携担当職員等のコメントを蓄積しておいてください。
- ② 上の「事業だより発行計画」をご覧ください。発行予定の前月に本部事務局からデータ提出のお願いを発信しますので、それに依って提出をお願いします。
- ③ データの提出先は、community@city.tamana.lg.jp です。
- ④ 皆様から寄せられた情報等をもとに事業だよりを作っていきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ⑤ 変更の希望やご意見、お尋ね等がありましたらコミュニティ推進課☎5-1312 までお寄せください。

本部運営委員の皆様へ!! 連絡とお願いです!!

実は5月25日(火)に「令和3年度第1回玉名市地域学校協働本部運営委員会」を開催する予定で準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、書面決議の形式をとることとしました。会議資料を近日中にお届けしますので、ご意見等をお寄せください。ご理解・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



地域学校協働本部運営委員会とは、地域学校協働活動の運営方法等を検討するための組織です。現在、玉名市では18名の方で構成されています。通常、年度初めと年度末の年2回、会議を開催する予定です。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第44号
令和3年5月24日

家庭の教えて芽を出し
学校の教えて花が咲き
世間の教えて実が成る



学校では、「朝顔の芽が出たよ！花のつぼみだよ！」「ミニトマトの花が咲いたよ！実が成ったよ！」という子供たちの声が響いている頃ではないでしょうか。拙宅の菜園でも先日、キュウリやピーマン、ズッキーニの今季初収穫ができました。「芽を出し、花が咲き、実が成る」と言えば・・・

「拝啓、ことわざにも教育の道は、家庭の教えて芽を出し、学校の教えて花が咲き、世間の教えて実が成ると申すほどにこれ候えば、学校と家庭とは、常に相一致し、互いに力を合わせ、同じ方向に相進み、小児をして世間の悪しき風習に染ましめぬように致したき事にござ候。・・・」

明治31年（1898）年、埼玉県幡羅高等小学校が保護者に配布した「家庭心得」の「前書き」の一部を原文のまま抜粋しました。この「家庭心得」が配布されたのは123年前のこと。社会状況は大きく違っているでしょうが、家庭・学校・地域という繋がり・広がりの中で人は成長するという視点を持つことが大事であるということは今も昔も変わらないようです。「不易流行」の理念です。

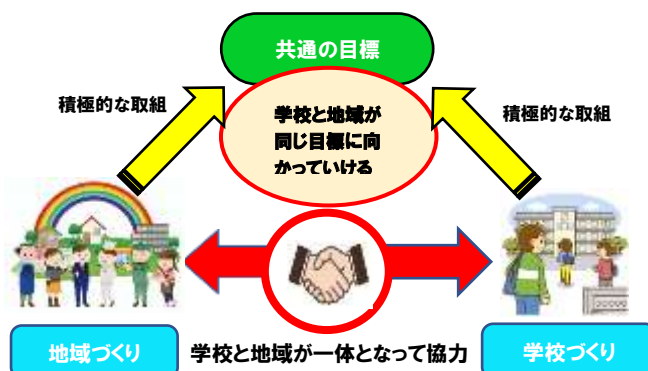
そこで今回は、次のテーマで書きます。（参考文献：「これからの学校と地域」文部科学省）

学校と地域がパートナーとなることで・・・

保護者・地域住民等も教育の当事者になることで、責任をもち、積極的に子供の教育に携わるようになる。

- ★近所に元気のない様子の子供がいても、なかなか声をかけることができない。
- ★子供のマナーについて学校へ苦情の電話がある。

- ☆積極的な声かけや自ら指導する機会が増える。
- ☆学校任せではなく、地域が学校とともに対策を考える。



保護者・地域住民等が学校運営や教育活動へ参画することで、生きがいにつながり、子供たちの学びや体験が充実。

- ★自分の経験を生かして学校や子供のサポートをしたいが、迷惑にならないか。
- ★地域の人と関わる機会が減ってきている。
- ★地域人材を活用した学習が単発で終わる。

- ☆地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現する。
- ☆学校の中心に地域がつながり、地域の活動が活発になる。
- ☆地域の創意工夫や特性を生かすことで、学校での学びがより豊かで広がりをもつようになる。

保護者・地域住民等と学校が“顔が見える”関係となり、保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現。

- ★一方的な意見が数多く学校に寄せられる。
- ★学校が保護者や地域住民の様々な要望の対応に追われている。

- ☆学校の現状や方針への理解が深まり、地域が学校の応援団になる。
- ☆地域の協力により教職員が子供と向き合う時間が増える。

生徒指導、防犯、防災等でも効果が期待されます。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第45号
令和3年6月4日

5月「皐月」「May」「薫風の候」から6月「水無月」「June」「文月」「初夏の候」へ。すでに梅雨に入り、鮮やかな紫陽花の季節を迎えています。

紫陽花の 雫あつめて 朝日かな (加賀千代女)

梅雨の晴れ間、コミュニティ推進課の窓からは二ノ岳、三ノ岳の木々の盛り上がりまで見えます。若葉、新緑の木々も眩しさ、逞しさを増していきます。

新緑と いふしづけさと 明るさと (稲畑汀子)



さて、本年度も2か月が経ち、各学校では学校運営協議会が設置され、地域学校協働活動との一体的推進に向けて動き出そうとされているところではないでしょうか。そこで今回は次のテーマで書きます。(参考文献：「これからの学校と地域」文部科学省)

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

「なぜ今、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が必要なのか？」

今年、急激な社会の変化に伴い、学校と地域を取り巻く課題はますます複雑化、多様化しています。

学校は、いじめや暴力行為等の問題行動の発生、不登校児童生徒数の増加、特別な配慮を必要とする児童生徒数の増加など、多様な児童生徒の保護者等への対応が必要な状況となっています。また、そのような学校の役割の拡大により教員の業務量が増加しているといった課題も出ています。

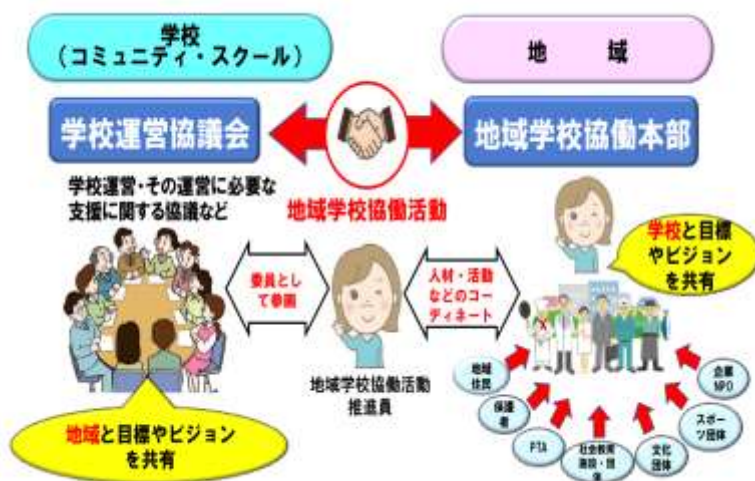
一方、地域においても、家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化等により地域社会における支合いやつながりが希薄化することによって、地域社会の停滞や教育力の低下などが指摘されています。

そうした状況の中、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という新学習指導要領の目標を学校と地域が共有し、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、相互の連携・協働のもとに学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子供たちの成長を支えていくことが必要です。

これらを受けて、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」と学校と地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」の一体的な実施が推進されています。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に進めるためには、まず関係者で目標やビジョンを共有することが重要で、学校運営協議会の協議や熟議等がその役割を果たします。その結果を踏まえ、幅広い地域住民等が参画することによって、教育活動や地域学校協働活動の充実や活性化につながります。

学校運営協議会と地域学校協働本部は、それぞれがもつ役割を十分に機能させ、一体的に推進することで、相乗効果を発揮し、学校運営の改善と地域づくりに資する活動が一層進んでいくことが期待されます。



次代を担う子供に対してどのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が連携・協働し改革が進められていきます。そこでは「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」がその改革の両輪で、その両輪をつなぐ「軸」が「社会に開かれた教育課程」です。「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」が相互に補完し高め合う存在として相乗効果を発揮していきましょう。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第46号
令和3年7月1日

朝顔のつる
金子みすゞ

垣がひくうて 朝顔は、
どこへすがろうとさがしている。
西もひがしも みんなみて、
さがしあぐねて かんがえる。
それでも お日さまこいしゅうて、
きょうも一寸 またのびる。
のびる、朝顔、まっすぐに、
納屋のひさしが もう近い。

6月から7月「July」「文月」「七ヶ月」
「盛夏の候」へ。いよいよ本格的な夏へ。
通勤の途中、道路脇の民家の庭に朝顔の花
が咲いていました。朝顔を見ると思い出す
詩があります。金子みすゞ氏の「朝顔のつる」です。



後半部分が「がんばれ！がんばれ！」と朝顔だけではなく、
読む者も励ましてくれているようです。悩み苦労しながらも伸
びようと頑張る朝顔が「子供たち」の姿と重なります。その子
供たちが恋い慕う「お日さま」あるいは「納屋のひさし」役を
務めるのが「大人」や「社会」でしょうか。そうやって次の時
代を任せられる青年が育っていく。その連鎖です。

放課後むつみ教室(放課後子供教室)が始まりました

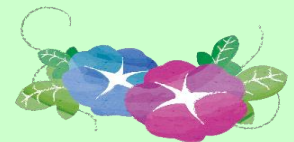
玉名市では睦合小学校の「放課後むつみ教室」と玉水小学校の「玉水学びの教室」の2つの放課後子供教室が設置されていますが、昨年度はコロナ禍のため両教室とも開催できませんでした。今年度は、「放課後むつみ教室」が6月25日よりスタートしましたので、その様子の一部を紹介します。コロナ禍のため通常より約1ヶ月遅れのスタートになりました。「玉水学びの教室」は後期より(10月より)開催される予定です。

放課後むつみ教室

- ☆設置場所 睦合小学校内
- ☆コーディネーター 今村恵子さん
- ☆安全管理員 3名
- ☆学習指導員 9人
- ☆回数 10回
(コロナ禍のため開校式中止)
- ☆活動日 金曜日
- ☆参加人数 9名(1年生)

【学習プログラム】

- ①6/25:マジック
- ②7/09 ぶんぶんゴマ
- ③9/10:科学遊び
- ④9/24:押し花のしおり作り
- ⑤10/01:絵手紙
- ⑥10/22:おもしろクイズ
- ⑦11/05:ジャイロコプターを
作って飛ばそう
- ⑧11/26:リズム・ダンス
- ⑨12/03:花の寄せ植え
- ⑩12/10:ありがとうの手紙



まずは宿題を済ませます。



いよいよマジックの始まりだ！



間違いなくロープを切ったぞ！



アレ！切ったはずのロープがつながっている！



不思議だ？どうしてだ？



お家の方々も参加されました。

裏面あり

おねがい

今回は放課後子供教室を取り上げました。事業だより№.43の裏面で提案しましたように、次回からは、各校区の活動の様子を中学校区毎にお伝えしていきたいと考えています。

つきましては、次のように情報をお寄せくださいますでしょうか。ご多用中とは存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【提出していただきたい内容】

- ①活動の様子が分かる写真。
- ②写真のタイトル（「〇年生の～」 「◇◇の学習」 「☆☆の時間」 「△△活動」 など）
- ③写真の活動に関わる児童・生徒、地域ボランティア、地域学校協働活動、担任や地域連携担当職員等のコメント

【提出のタイミング】

- ①発行予定の前月までに事務局から提出のお願いを発信しますので、それを受けて提出をお願いします。

【提出先】

- ①電子媒体で提出してください。提出先は community@city.tamana.lg.jp です。

※ ご意見、お尋ね等がありましたら、コミュニティ推進課 ☎5-1312 までお寄せください。

事業だより「人を育て地域を創る」発行計画

発行予定	内 容
4月号（4月下旬）	事業の概要 等
5月号（5月上旬）	事業の概要 等
6月号（6月上旬）	事業の概要 等
7月号（7月上旬）	放課後子供教室の活動紹介
8月号（8月上旬）	天水中校区（玉水小、小天小、天水中）の活動紹介
9月号（9月上旬）	岱明中校区（大野小、睦合小、鍋小、高道小、岱明中）の活動紹介
10月号（10月上旬）	有明中校区（大浜小、豊水小、横島小、有明中）の活動紹介
11月号（11月上旬）	玉陵中校区（玉陵小、玉陵中）の活動紹介
12月号（12月上旬）	玉南中校区（八嘉小、伊倉小、玉南中）の活動紹介
1月号（1月上旬）	玉名中校区（玉名町小、築山小、滑石小、玉名中）の活動紹介
2月号（2月上旬）	年間の総括的内容
3月号（3月上旬）	年間の総括的内容

地域学校協働活動の現場や授業、中学校区毎の推進員連絡会に数件の案内をいただきました。子供たちやこの事業に関わっていただける方々の熱が直に伝わってきて、刺激になり勉強にもなり、たいへん有り難く思います。事務局がおじゃましてもよい機会がありましたら、今後是非お声掛けをお願いします。

昨年度末に作成しました「R3地域ボランティアバンク」を活用し、これまでに3件を繋ぐことができました。また、玉名市広報誌6月号でボランティアを募集しましたところ、3人の方から申し込みがあり、該当校区に連絡しました。独自に担当校区にボランティアの募集をかけられた推進員さんもおられます。ボランティアの方々がおられなければこの事業は成り立ちません。有り難いです。感謝します。そして、これからもよろしくお願いします。





人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第47号
令和3年8月6日

コミュニティ推進課の窓から外を見ると二ノ岳、三ノ岳が横たわっています。その上には入道雲がいくつもいくつも折り重なるように盛り上がっています。力強く、そして美しいです。

目出度さは ぞろりと並ぶ 雲の峰 (小林一茶)

視線を下すと山の中腹には人家があり人の営みが窺えます。

田よ畠よ 寸馬豆人 雲の峰 (小林一茶)

7月から8月「August」へ。暑い日が続きます。

へなへなに こしのぬけたる 団扇かな (久保田万太郎)

8月は「葉月」「初来月」「南風月」「月見月」「秋風月」とも呼ばれます。暑い暑いと言いつつも…

涼しさの 腹にとほりて 秋ちかし (正岡子規)



今回は、天水中学校区3校の活動の様子を紹介します

天水中学校

天水町を見に行こう 総合的な学習の時間

1年生「働く人々の姿と考え」

【玉名農業協同組合天水総合支所】



天水町の食と農のいいところは、農業で働く人、JAで働く人、いろいろな人が連携して売っていることです。天水町の課題は、後継者がいなくて、農業をする人が減っていることです。これから天水町についてもっと知りたいです。

生徒が職場を訪問し、働く人たちの姿を直接見聞きすることにより、望ましい職業観・勤労観についての理解を深めるために。

【天水学校給食センター】



感染症防止のため天水中にて

「地産地消」をして、よりフードロスを減らす活動をしているのがいいなと思いました。そして、天水の野菜を仕入れていて、とても安全で安心して食べられるなと思いました。

【水本オレンジガーデン】



水本さんが「たくさん農業をする人が増えてほしい。」と言っていたので、私も天水町の魅力をたくさん知って、少しでも農業のことを知りたいです。

3年生「地域の人々への取材活動」

ふるさと天水町のために自分たちなりに貢献できることを探求するために。

視点①天水町の活性化や暮らしやすい町づくり

視点②天水町的环境保全

視点③天水町の安全安心や防災



果樹園経営 藤川さん



天水駐在所 田代さん



那古井館 女将さん



ケアビレッジたがの里施設長 松下さん



玉名市商工会 事務局長 西山さん
天水支所長 瀬田さん



天水中学校運営協議会長 池田さん



宮崎クリニック院長夫人



小天保育園 玉水保育園
子育て中の保護者4名

裏面あり

玉水小学校



5年生：地域探検



2年生：いもの苗植え



1年生：タブレット研修



3年生：尾田川伝説

【子供の感想】

- 竹崎地区に行って、小麦畑がきれいに広がっていました。
- 町にはいろんな花がさいているのに気づきました。
- ポイ捨ての看板を見つけることができました。自分たちも町をきれいにしたいと思いました。
- 地域の人に玉水校区のことを教えてもらいました。とても分かりやすく、自分たちの地域のことが好きになりました。



ホームセンター見学



先輩の話

小天小学校



地域学校協働活動推進員の水本先生には、地域人材を活用した行事や学習はもちろん、3・4年生外国語活動と5・6年生の外国語科の授業を長年にわたり支援していただいています。授業後は子供たちの様子等で気づかれたことを伝えてくださいます。



毎週月曜日と木曜日、水本先生は登校する子供たちを見守ってくださいます。



推進員さんの情報交換会

天水地区の地域学校協働活動推進員さんは、毎月小天小に集まり、各学校の取組や活動の進捗状況等の情報交換を行ってられます。協力しながら充実を図られています。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第48号
令和3年9月 日

前号で入道雲を話題にしました。記事を書きながら、夏の空を見上げて「あの雲は龍の頭に似ている。どうしてあんな形になるのだろう」と語り合う二人の小学校2年生に出会ったことを思い出していました。「どうしてだろう」と不思議に語り合う子供たちに出会えたことを嬉しく思い、金子みすゞ氏の右の詩を添えながら通信に載せたのでした。

身の回りには「ふしぎ」がいっぱい。でも一番不思議だったのは「不思議なことなのに、それを不思議と思わず、当たり前と笑っている」ことだったのです。

櫓船が右や左に揺れることによって前に進んでいくように、子供たちは「なぜ?」「どうして?」を解決していこうとする道のりの中で、揺れながら逞しく生き抜いていく力を身につけていくのでしょうか。

ふしぎ
金子みすゞ
わたしはふしぎでたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。
わたしはふしぎでたまらない、
青い桑の葉をたべている、
蚕が白くなることが。
わたしはふしぎでたまらない、
たれもいじらぬ夕顔が、
ひとりではらりと開くのが。
わたしはふしぎでたまらない、
だれにきいても笑ってて、
あたりまえだ、ということが。

今回は岱明中学校区 5 校(大野小、睦合小、鍋小、高道小、岱明中)の活動の様子を紹介します

岱明中学校

生徒の感想を紹介します。

【全学年:交通教室】
=交通指導員 岡部様=



命の大切さについて考えることができた。自分の命を守るための行動を心がけたい。

【1年生:生き方講話】
=書家 徳村様=



百折不撓という言葉のように、自分の夢に向かい、何度失敗してもあきらめずにがんばりたい。

【ボランティア委員会・生徒会:花壇整備】
=民生児童委員10名=



これからも花のお世話を続けてきれいに咲かせたいです。

大野小学校

子供たちと久々に会えて嬉しかった。(ボランティアの方の声)

【3年生:タブレット学習】



ローマ字入力が難しそうでした。でもタブレットの使い方は大人よりも上手。インターネットの沢山の情報に混乱気味。ボランティアの方に漢字の読み方を教えていただきました。

【3年生:習字】



まだ2回目の習字で、まず道具の置き方から。筆の使い方が難しかったようで、ボランティアの方に手を持ってもらい書く子も。一人で書くよりきれいに書けたととても喜んでいました。

【1～3年生:読み聞かせ(いしころの会)】



《ボランティアの方の声》
初めての読み聞かせは緊張したけれど、子供たちが喜んでくれて良かったです。次は何を読もうか、私も楽しみにしています。



《ボランティアの方の声》
真剣な眼差しで読み聞かせを聞く子供たち。読み手の私も、物語に入り込んで読むことができました。姿勢正しく最後まで集中して聞いてくれました。

睦合小学校

「横島干拓について、詳しい方のお話を聞いて学ぼう」
6年生 総合的な学習の時間

横島町文化財保存顕彰会(4名)の方々に来ていただきました。事前にインターネットを用いて調べ学習を行っていましたが、「いつ」行われたのかははっきり結論を出せずにいました。「干拓と埋め立ての違い」「岱明校区の鍋小学校近くの501号線に岱明町の干拓の跡、石垣が見られること」「横島町の干拓は長い時間をかけて行われたこと」「南関町や荒尾市の人々など、遠くの方も干拓の作業を担っていたこと」「長い年月をかけて干拓が行われてきたこと」「潮害との闘いの歴史」など詳しくお話していただきました。



《児童の感想》

- インターネットで調べたときにわからなかったことを知ることができました。干拓には何があるのか、どのようにできていったのかがわかりました。人柱を立てて干拓していったこともわかりました。
- 干拓と埋め立ての違いを初めて知りました。干拓を行うのは大変なんだなと思いました。
- 干拓はメリットばかりがあると思っていましたが、干拓するまでの人々の努力や私が知らなかった潮害のことを知って驚きました。講師の先生がおっしゃっていた動画を見て、干拓を作るときのことや潮害のことについてももっと詳しく知りたいです。

鍋小学校

【全学年：読み聞かせ】
＝くすくすの会＝



《担任の先生の声》

- 話の中に引き込まれていくような感じがしました。子供たちは、いつもと違う雰囲気だったので、静かに聞き入っていました。
- 時間があつたので、同じ話を2回読み聞かせしていただきました。2回聞くと新しい発見があり、絵本の世界が広がりました。繰り返し読むことは大切だと思いました。

【6年：干拓について学ぼう】
＝横島町文化財保存顕彰会＝



《担任の先生の声》

校区の歴史について、詳しい方がいて大変助かりました。スライドを用いて丁寧に分かりやすく説明頂きました。干拓の歴史が分かり鍋小学校が更に好きになりました。

《児童の感想》

干拓のことは何となく知っていました。これだけ大変な苦勞があり、干拓がつくられたとは知りませんでした。自分の住んでいる地域の歴史を知ることができよかったです。ありがとうございました。

【5年生：裁縫 手縫い】



《担任の先生の声》

手縫いの経験のない子供たちにとって、4人の補助はありがたかったです。「できた！」の聲があがり、達成感を味わうことができました。

《児童の感想》

玉止めが上手くできないときに、ボランティアの方が横について丁寧に教えてくださったのでうれしかったです。おかげで、できなかったことができるようになりました。夏休みが明けたら小物づくりをするので、教わったことを生かして頑張ります。

【5、6年生：ノリの手すき体験】
＝岱明漁協、県水産課＝



《担任の先生の声》

地元の産業を体験する機会に恵まれ、大変ありがたかったです。様々な職業を体験することは、子供たちの将来にとってすごく大事なことです。楽しそうに海苔すきをしている子供たちの姿を見て、体験に勝るものはないと感じました。

《児童の感想》

海苔はよく食べますが、どのように作られているのか知りませんでした。海苔が更に好きになりました。ミッキーの形の海苔を作ることができて楽しかったです。

高道小学校

「地域や保護者の皆様の心強い支援」



【イモ栽培活動支援】

一昨年まで本校の縦割り班活動として行ってきたサツマイモの栽培活動でしたが、昨年度から新型コロナウイルス感染症の感染予防のため大勢での栽培活動が難しくなりました。しかし、収穫の喜びを味わってもらいたいという現旧保護者の思いが強く、PTA有志による「イモ部会」が結成され、イモの栽培活動を担っていただきました。作業は畑の耕耘から畝づくり、マルチシート張り、苗の植え付け、草取りまで全てです。今後、イモが成長し収穫できることを楽しみに待っているところです。



【防犯パトロール隊の活動】

校区の方々の防犯意識が高く、各地区の区長・民生委員・補導委員・保護者の皆様が子ども達の身を守るために日々活動して下さっています。朝の交通指導や下校時の見回りは天候が悪い中でも活動して下さっています。

次号No.49では有明中校区4校(大浜小、豊水小、横島小、有明中)の活動の様子をお伝えしようと計画しています。活動の様子分かる写真、その活動に関わる子供・ボランティアの方・教職員の感想などを9月末日までに community@city.tamana.jp までお寄せください。よろしく願います。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第49号
令和3年10月21日

10月、「神無月」、「October」、「神去月」、「時雨月」、「初霜月」。「清秋の候」、「秋涼の候」。近所の田んぼでは稲刈りが済みました。八十八もの手間をかけ米を育ててくださる農家の皆様のご苦労に感謝申し上げます。

新米の 其一粒の 光かな (高浜虚子)

そして、この数日急激に気温が下がり、一気に秋が深まり、吹く風に肌寒さを感じるようになりました。拙宅の猫の額ほどの菜園では、9月末に蒔いた野菜の種が芽を出し、青空に向かって葉を広げ始めました。毎日グングンと大きくなるその様子に逞しさを感じます。お世話するのが楽しみです。

10月になり、延期していた本事業の地域説明会を実施することができました。その様子も後日紹介したいと思います。本市の教育振興基本計画の基本理念「生涯を通じて未来を拓く、地域と国際社会に貢献する『かがやく』人づくり」を実現させるため、「出会いの花咲く学びの場を創り、人を育て地域を創りましょう。地域を育て人をつくりましょう。」コロナ禍の中です。安全を第一とし、創意工夫を重ねながら活動を展開してまいります。



今回は有明中学校区4校(大浜小、豊水小、横島小、有明中)の活動の様子を紹介します。

大浜小学校

〔交通教室〕

〔2年 生活科:町たんけん〕

〔4年 総合的な学習の時間〕

〔清掃活動〕



低学年



中・高学年



清原推進員さんが調整してくださるスムーズに訪問できました。当日もサポートしてくださり有意義な地域学習ができました。



大浜地区に伝わる「年紀祭(ねんきさい)」の由来や大浜地区の成り立ちについて戸崎様に話をさせていただきました。



有志の方数名が児童玄関ホールのタイルを高圧洗浄機で清掃してくださいました。見違えるほど美しくなりました。

横島小学校

4Hクラブとの連携

4Hクラブ(若き農業者のグループ)からの「子供と一緒に何かできないか」との要請から昨年度スタート。学校運営協議会にも諮り、年間活動計画に位置付けて行っています。昨年度は5年生の米作り、今年度から1. 2. 3年生のサツマイモ作りが加わりました。

6月29日(5年生:田植え)
4Hクラブ10名



6月15日(1. 2. 3年生:イモ苗植え)
4Hクラブ13名

「朗読劇・よさこいクラブ」への参加



今年度から始まった新たな取組です。月1回、クラブ活動のときに「横島校区まちづくり委員会」が講師を務められる横島公民館講座「朗読劇・よさこいクラブ」に4年生から6年生の15名が参加しています。発表の機会が予定されており意欲的に活動しています。



裏面あり

豊水小学校

春花の種まき、豊寿会との合同「春の花苗植え」



4月20日(火)、地域の花の先生をはじめ4人の地域ボランティアの方に来ていただき、上級生と下級生でペアになり鉢に一粒ずつ花種をまきました。児童は約2か月、水やり肥料やりを頑張リ、一苗ずつポットに移植しました。

6月14日(月)、5・6年生が豊寿会(小野尻老人会)の方々と一緒に花の苗植えをしました。

おいでいただいた豊寿会の方々をはじめ、ほかでも地域の様々な皆様に支えて頂きながら、子供たちも健やかに育っており、大変に有り難く思っております。

地域のいろんなことを教えていただいています！



2年生は町たんけんに行きました。

小島では小島天満宮で神楽を舞っておられる方から、特別に神楽で使う鬼の面を見せてもらい、地域の様子や神楽のことについて詳しく教えてもらいました。川島では、豊寿会の会長さんにお会いし、川島のお宮や天満宮、川島小学校跡を見学し、川島の歴史を教えていただきました。

教科書で学べない郷土のことについて、直に見たり聞いたりできるのは、とても貴重な体験です。子供たちの学びのために時間を割いていただき、大変ありがとうございました。



プール掃除、保護者ボランティアありがとうございました！

6月2日(水)、プール掃除を行いました。当日は保護者2名にもご協力いただき、それぞれに高圧洗浄機を持ってきていただき、また子供たちも一生懸命取り組んでくれたおかげで、予定より早く作業を終えることができました。そして水を注入し、翌日にはきれいな水がキラキラ輝くプールになりました。



有明中学校

【3年生:職業講話】

ニハローワーク 今田様＝

「採用で重視するランキング」「仕事をするうえで身につけておくべきこと」等についての学習をしました。就職試験問題(SPI)へチャレンジする場面もあり、中学校レベルの問題が出題されることを知りました。

【生徒の感想】

自分は、会話、特に説明が苦手なので、採用される時にも必要なコミュニケーション能力を身につけるようにしたいと思いました。就職するときに、仕事に対する覚悟を持って自分にあった仕事を見つけられるように、これからがんばっていきたいです。



【1年生:大浜飛行場について】

ニ大浜町の歴史と文化を伝承する会 戸寄様＝

第二次世界大戦当時、「なぜ大浜飛行場が作られたか」「飛行場の施設」「訓練の様子と訓練に使われた飛行機」「空襲の被害」等について学習しました。今回の学びを10月に実施するフィールドワークへつなげていきます。



【生徒の感想】

- 今まで、大浜に飛行場があったなんて知りませんでした。そして、今日の学習を通して詳しく知ることができました。自分の住んでいる場所だけれど知らないことがたくさんあるので、もっと知りたいと思いました。
- 私は小学校のときも大浜飛行場について学びました。今回の学習でたくさんの方が亡くなったことを知り驚きました。また、昔の様子がわかる場所が最近少なくなっているので、残していきたいと思います。

編集後記・・・むごい教育

久々に歴史小説を読んでいます。松平(徳川)家康が岡崎城で一揆の対応に追われていた頃の三河が舞台です。ふと徳川家康に関わるエピソードを思い出しました・・・。時は戦国時代。権勢を誇っていた今川義元は、幼い日の徳川家康を人質にしていた。そして、徳川家康に対して『むごい教育』をするように家臣に指示したのです。

しばらくたったあと、義元は家臣を呼び家康の様子を尋ねました。家臣は「朝は早くから起こし、三食粗末な食事を与え、昼は馬や剣術に励ませ、夜は学問と、休ませることなく厳しく教育しております。」と答えました。それを聞いた義元は「すぐに止めろ。朝は起こさずにつまでも寝せておけ。食事は山の幸や海の幸あふれる贅沢なご馳走を好きなだけ与えてやれ。武術や学問は決して無理強いをするな。本人の望むことは何でも与えてやれ。そうすればたいいてい人間は駄目になる。」と命じました。しかし、義元の思惑通りにはならず、竹千代はやがて織田家の人質となります。

もし、徳川家康がずっと今川義元の人質だったら、その後の歴史はどうなったのでしょうか? 「たら」「れば」で語ってはいけないのかもしれませんが・・・。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第50号
令和3年11月15日

11月「霜月」「November」から、12月「師走」「霜月」「December」へ。
先日、夕方菊池川の土手を車で走っていると鳥の集団が夕日を背景に飛んでいました。清少納言は『枕草子』の中で、秋の季節の素晴らしさを「をかし」という言葉を使って表現しています。



秋は夕暮。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言うべきにあらず。

日に日に菊池川の川面に浮かぶ鳥（鳥の種類は不明ですが…）の数が増えているようです。遠路はるばるやってきた鳥たちです。一冬、玉名の地で安心してゆっくりと過ごすことができますように。

けふからは 日本の雁ぞ 楽に寝ろ （小林一茶）

そして、清少納言が言う「まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし」の光景が見られるといいですね。

今回は玉陵小中学校区の活動の様子を紹介します。

小中一貫教育校として玉陵小・玉陵中の学校運営協議会は小中合同です。昨年度、「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣賞を受賞しています。



小中合同の活動



小中合同環境ボランティア(秋)



小中合同環境ボランティア(春)



小中合同サツマイモ植え



小中合同あいさつ運動



新玉名駅



県北病院

おもてなしフラワープロジェクト

○環境委員長「コロナ禍でも、見た人が明るい気持ちになると嬉しいです。」
○駅長さん「大事に育てた花を届けてもらい、ありがたい。皆さんの力を借りて花があふれる駅にしたい。」

児童の声：学校運営協議会の方に教えてもらって、最初は難しかったけれどだんだん慣れてきました。



金栗四三子供ボランティアガイド

土日祝日に小中学校の有志が観光客に説明する。地域の方(小田校区住民)に指導していただき、知らない大人にも堂々と説明できるようになった。観光客に好評である。(※裏面参照)

裏面あり

玉陵小学校



ジャガイモの収穫



米作り



あいさつ運動



交通安全指導



プール見守り



野菜作り



環境整備



玉陵中学校

職業講話



校区内の方に仕事のやりがいや厳しさを講話していただいた。

認知症サポーター養成講座



認知症を正しく理解し、適切な関わり方を学びながら「生きること」を考える機会とした。

福祉体験学習



写真：アイマスクで視覚障がい体験。暮らしやすい地域、福祉について理解を深める。

読み聞かせ



地域の読み聞かせの会「たまよりの会」がPTAや地域住民を募って毎月実施している。

金栗さんの功績を学んで発信へ



元玉陵校区住民の金栗四三氏について講話をいただき、夏休みに調査を実施。その後発表会を開いた。

生徒の声：マラソン以外でもたくさんの活動がありました。もっと金栗さんのことを知りたくなった。こんなに有名な人がすぐ近くに住んでおられたなんてびっくりです。



交通安全指導

次号No.51では玉南中校区3校(八嘉小、伊倉小、玉南中)の活動の様子をお伝えしようと計画しています。活動の様子の分かる写真、その活動に関わる子供・ボランティアの方・教職員の感想などを11月末日までにcommunity@city.tamana.lg.jp までお寄せください。よろしくお願いします。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第51号
令和3年11月24日

11月は「霜月」。「初霜」「木枯らし」「小春日和」の頃。「紅葉」の季節を迎えています。7日（日）の「立冬」も疾うに過ぎ、一雨ごとに冷え込みが増しているようです。秋が深まり、各地から紅葉のニュースが届きます。だんだん冬が近づいてきます。



ふた葉三葉 ちりて日くるる 紅葉かな （与謝蕪村）

「紅葉」「黄葉」のどちらも「もみじ」と読みます。さて、なぜ「もみじ」といわれるのでしょうか。

霜が降りる日もあり、寒暖の差が激しいこの時期、露や時雨の冷たさに、もみ出されるように色付くことから「もみづ」と言い、名詞化して「もみち」に。平安時代に「もみち」と濁点が付き、今の「もみじ」になったそうです。紅葉の季節、たっぷりと味わいたいですね。

今回は「地域学校協働活動地域説明会」を振り返ります。

本来8月に予定していたのですが、コロナ禍のため延期していた地域学校協働活動地域説明会（中学校区毎に実施）を10月に開催することができました。4日（月）、13日（水）、14日（木）の3日間で地域の方、推進員さん、学校の先生方など延べ140名の方々が出席してくださいました。ご多用の中、誠に有り難く存じます。

先月、市民の方から「学校で何かやっているようだけれども、地域学校協働活動っていったい何なの？」とのお尋ねを受けました。No.42号（4/26）に書きましたように、今年度の大きな課題の1つが「**本事業を知っていただく！そして、力を貸していただく！**」です。そのためにと考え推進員さん方には地域説明会では実践発表をお願いしました。活動の最前線で奮闘されている推進員さん方の熱い想いは出席された方々に響き、地域に「波紋」のように広がっていくものと期待しております。有難うございました。感謝申し上げます。

尚一層、学校、地域、家庭、子供、行政の5者がスクラムを組み「**学校を核とした地域づくり**」を推進していきましょう。「**地域の創生」「子供の成長**」のために「**社会総がかりの教育**」の実現をめざしましょう。皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「こんなことやったよ！」「こんなことやりたいな！」
地域説明会で話題となったことです。参考にしてください!!

令和3年度地域のつくり講座第2回資料（県統括アドバイザー：山平敬夫氏作成）より

「地域説明会で話題になったこと①」 10/4(月)玉南中校区・有明中校区

- 学校の連携・協働に関する考えをもっとPRする必要がある。学校を支援する人に十分伝わっていない。
- 子供の遊びを推進したい。ビー玉遊び、凧揚げ等。地域で遊ぶことで触れ合いが生まれる。
- 活動の評価が必要。子供がサポートすることでどう変わったのか。
- 地域において、生徒にしてほしいことをどんどん教えてほしい。
- まだまだ参加できる方がいる。掘り起こしが必要。
- 子供たちから愛称で呼ばれるようになった。とてもうれしい。
- 学校が花いっぱいになった。
- 公民館講座とクラブ活動をつなげることができた。
- 回覧の仕組みがなかったが、何とかして学校だよりを全戸配布した。
- 今まで関わっていなかったボランティアグループが学校支援の活動を始めた。
- 地域から学校への要望も挙げてほしい。



「地域説明会で話題になったこと②」 10/13(水)天水中校区・玉名中校区

- 年3回発行の支館だよりに学校の様子を掲載していただいている。
- 高齢者の方が昔取った杵柄を發揮して、虫取りで子供のヒーローになった。
- プール監視のサポートが70回ほどできた。
- 地区の神楽が児童減少で危機に瀕している。学校と連携できないか協議している。
- パソコン教室に企業OB、教職員OBを活用している。
- 学習に対して困り感のある子供への支援をお願いしたい。
- ありがとう集会で地域の支援に対してお礼をしている。
- 地域の寄り合いで、子供も参加して地域のことを話し合った。
- コロナ禍の中で新しいことは難しい。既存の活動に工夫をしていく。
- 中学生と高齢者の交流をしたい。
- 学校からの依頼を優先したい。
- キャリア教育を通して学校と行政がつながった。
- ボランティアだけの草取り等に子供も参加するようにしたい。
- 保護者の協力をお願いする取り組みはよい。
- 中学生に地域の祭りや支館の美化作業へも参加してほしい。
- 空地の活用で交流できるようなことができないか。



「地域説明会で話題になったこと③」 10/14(木)玉陵中校区・岱明中校区

- ボランティア募集をまず保護者にとり、できなかったものを地域に呼びかけた。
- 中学生が小学生に寄せ植えの指導をする機会を作った。
- 朝の挨拶運動時に管理職と情報交換を行っている。
- 昔の偉人がたくさんいる。史跡もたくさんある。活用したい。
- ソーラン節や応援団等子供たちが身に着けている。活躍の場が欲しい。
- 学校へ地域の人が出向くきっかけが必要。何か参加できる行事が必要。
- 地域への情報発信が必要である。
- 子供たちが地域で活躍する場を作る必要がある。
- 学校でやることがわからん。そのためには学校へ行かんといかん。
- 地域の方が一緒に学校で勉強できたらうれしい。
- ボランティアが限られている。ボランティアの方を探すのが一番の仕事。
- OPTCA が広がっている。PTAは存続に関わるようなことが続いている。地域との棲み分けにより負担が減るので助かる。
- 地域住民が地域の学習会や行事に子供から大人まで巻き込んでいくことがとても大切ではないか。
- これまでの活動を充実していくことが大事。
- 地域には、地域の歴史、伝説、史跡等がある。これらを大事にできないか。
- 簡単にできることを継続していくことが大事である。
- 広報が大事。() 小学校区だよりがあるといいな。
- いろいろな地域の行事も中止や延期になっているが、別の方法で、できることからやったらどうか。



= 編集後記 =

前号のNo.50で雁の渡りを話題にしました。その続きです。(皆さん、すでにご存知かと思いますが…) 雁などが空を飛ぶとき「V字に並んで飛ぶ」のだそうです。大型の鳥が飛ぶと羽の斜め後方に空気の渦が発生し、揚力となり飛びやすくなる。だから隣の鳥は、斜め後ろを飛ばば楽に飛べる。雁は先頭を交代しながら列を作って、長い距離を楽に飛ぶ工夫をしているのだそうです。

もし渡りの途中に群れの中の一羽が病気やケガで飛べなくなると、体力のある二羽の雁がその雁を助けるために、付き添って地上に降り、飛べなくなった雁が回復するか死ぬまで付き添うのだそうです。その後、無事に回復すれば三羽で目的地に向かうか、新しい群れに加わり元のグループに追いついていくそうです。

雁にとっては本能、習性なのでしょうけれど、知性や心を感じます・・・。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第52号
令和3年12月3日

11月「霜月」「November」から12月「師走」「春待月」「木枯らしの季節」「December」へ。吹く風に冷たさを感じる今日この頃、あちらこちらの銀杏の木が黄金色に輝きながら存在感を示しています。そして、金色の小さな小鳥が舞うようにその葉を落とし始めています。

金色の ちいさき鳥の かたちして
銀杏散るなり 夕日の岡に (与謝野晶子)



先日、庭木に登って剪定をしていると「夕焼け小焼け」のメロディーが流れてきました。西の空には夕焼け。「綺麗だな」なんて思いながらポチポチと後仕舞いをしていると「アッ」という間に暗くなっていきます。最後は薄暗い中、大慌てです。日一日と日の入りが早くなっています。

今回は玉南中学校区(八嘉小、伊倉小、玉南中)の活動の様子を紹介します。

八嘉小学校



【1・2年: 苺の苗植え】

学校応援団の中山様から、今年も大切に育てられた苺の苗をいただき、苗植えの体験をさせていただきました。一人一鉢分あり、甘い苺を食べられるのを楽しみにしています。



【3年: 八嘉花いっぱい活動】

八嘉花づくり委員会の皆様に教えていただきながら、9月に種まきをしたパンジーの苗を10月に一つ一つポットに植え替える作業に挑戦しました。そして、その苗を11月に、国道にある八嘉校区の花壇に植えました。地域の方だけでなく、車で通る人たちにも楽しんでもらえたらと思います。



【4年: 水の学習】

社会科で水道のしくみについて学んでいる4年生が、玉名市上下水道工務課から4名の方々にきていただき、八嘉校区の水道のしくみについて詳しく教えていただきました。また、新設中の田崎配水池も見学させていただきました。



【5年: 稲刈り】

6月に田植えをさせていただいた学校応援団の竹下様の田圃で、稲刈りを行いました。鎌で稲を刈ることは初めての子どもがほとんどでしたが、竹下さんたちに教えていただいて上手に刈り取ることができました。

【児童の感想】

- 稲刈りをするのが初めてだったので、最初できるか少し心配でした。でも、みなさんがとても分かりやすく教えてくださったので、とても楽しかったです。
- 毎日当たり前のように食べていたお米は、農家の人が苦労して大事にして育てたものなので、感謝して食べなければと改めて思いました。



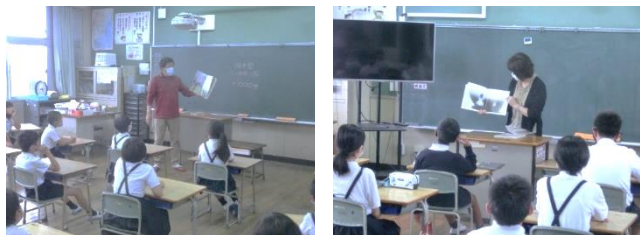
【5・6年: アウトリーチ鑑賞会】

5・6年生が、熊本お琴教室玉名研究所雅会の7名の演奏者の方々から、素晴らしい演奏を聴かせていただきました。演奏を聴かせていただいたあとには、実際に箏と太鼓の演奏体験をさせていただきました。

裏面あり

伊倉小学校

【読み聞かせボランティア】



毎月第1・第3金曜日の朝の15分間に、地域や保護者の方の読み聞かせをしていただいています。（現在保護者6名、地域の方7名、計13名。）

子どもたちは、読み聞かせを楽しみにしています。ボランティアの方々が子どもたちの興味関心を引くお話を用意されているので、毎回子どもたちには感動があります。お話が終わった後に時間に余裕があるときには、感想発表を行なっています。

子どもたちの情操を豊かにする時間となっています。

【丸付けボランティア】



毎月第2・第4金曜日の朝の15分間に、地域や保護者の方に丸付けをしていただいています。（現在、保護者8名、地域の方10名、計18名。）

丸付けボランティアの方が来られると、丸付けを効率的に行えます。教職員は、つまづいている子に個別指導にあたることができます。

ボランティアの方々には、引切りなしに丸付けを求めに来る子どもたちをほめたり認めたり励ましたりしながら対応していただいています。

15分というわずかな時間ではありますが、学習意欲や集中力が高まるとともに学力向上につながるものとなっています。

玉南中学校



【認知症サポーター養成講座：3年】

福祉体験学習の1つとして社会福祉協議会の方においでいただき、認知症サポーター養成講座で学びました。

【生徒の感想】

認知症の方たちも自分たちと同じようにできないことに対して不安や怒りがあることを知りました。この学習をしなかったらその方たちに偏見を持ったままだったかもしれません。こうやって学ぶことができてよかったです。



【職業講話：2年】

保育士、消防士、研究職、作業療法士の4名の方に来校いただき職業講話を行いました。仕事のやりがいや厳しさを学びました。

【生徒の感想】

私は今まで「人の役に立つ仕事」にあまり関心がなく自分自身が満足できるような仕事ばかりに興味を持っていました。しかし、お話を聞いて感謝の言葉をやりがいに感じたり助けた人の笑顔が次のエネルギーになったりする仕事もかっこいいと思うようになりました。



【北稜高校との連携（花植え交流会）】

北稜高校との連携で花植えの交流を行いました。まず農業の魅力や北稜高校園芸科学科の学科紹介の映像を見ました。その後北稜高校の生徒に花植えの指導をしてもらいながら花植えの活動を行いました。

【生徒の感想】

僕は、花植えや農業についてすごく大変できつそうで難しそうなマイナスのイメージを持っていました。今回の花植えの活動でそのイメージが180度変わりました。北稜高校の先輩に指導してもらって花植えはこんなに簡単にできるのだと思いました。楽しく達成感がありとても面白かったです。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第53号
令和4年1月19日

年新た 心新たに つつしみて (山口青邨)

「つつしむ」に漢字を当てるなら「慎」あるいは「謹」でしょうか。この言葉からは、この一年をどう過ごすのか、威儀を正し、誠実に、心静かに今の自分を見つめ、より確かな一歩を踏み出そうという気概が読み取れます。

玉名市内全部の小中学校区に推進員さんが配置されてから、4月で3年目を迎えます。種を蒔き芽が出るまでに時間がかかることがあります。それまで粘り強く水をやり続けなければなりません。芽が出たら日に当て栄養を与えることも必要です。「人を育て地域を創る」⇒「地域を育て人を創る」には長期に渡る継続的で確実な根気強い取組が必要と思われます。たとえ小さな小石でも、水面に投じると「波紋」が遠くまで広がっていくように、私たちの活動が地域に広がっていくことを目指して進めてまいりましょう。皆様、どうかよろしくお願いいたします。

さて、今回は玉名中学校区の活動の様子を2回に分けて紹介します。



第53号では玉名中学校区**その①**(玉名町小、築山小)の活動の様子を紹介します。

玉名町小学校

今年度は、コロナ禍のために学校支援ボランティアの活動を大幅に制限することになりましたが、状況に応じて取り組んできました。体験活動支援ボランティアでは、1・2年生の生活科の校外活動で、児童の見守りをしていたり、児童が捕まえた虫を昆虫図鑑で調べたりしていただきました。6年生の平和学習では、高谷さん・松山さんに玉名の戦争遺跡について話をいただき、私たちの住んでいる玉名も戦争とは無縁ではなかったことを伝えていただきました。他にも、花*花クラブの活動、フッ化物洗口や図書室の整備、印刷や登下校見守りなど様々な分野で地域ボランティアの方々の力を貸していただきました。大変感謝しております。



【1年:公園で遊ぶ】



【2年:生き物を探そう】



【印刷ボランティア】



【花*花クラブ】



【図書館整備ボランティア】



【防犯ボランティア】



【フッ化物洗口ボランティア】



【6年:平和学習講話】



【6年:平和学習講話】

【6年児童の感想】

○B29の焼夷弾によって隣の家の赤ちゃんが亡くなった話を聞いて「これからの人生で楽しいこともうれしいこともたくさん経験していけるのに、人生を一歩足を踏み出す前に、全ての希望を奪われた」と感じ、心が痛んだ。
○平和のために「支え合う」ことの大切さを実感した。

裏面あり

築山小学校

【交通見守りボランティア】



教師の感想

築山小校区の交通量が大変多いため、登校時は毎朝同じ場所で見守っていただき、児童も安心感をもって登校することができていた。

1年生の下校時は、築山小校区の民生委員の見守り隊の方々に付き添っていただいて本当に助かっている。

また、見守りをされていて児童の様子で気になったことを学校に知らせていただいている。私たちが見えない部分でもあり、とても感謝している。

【PTA 環境きりボランティア】



児童の感想（6年生）

お忙しい中に築山小のために草刈りをしていただきとてもありがたいです。私もこのようなボランティアをすることがありますが、きついときもあります。だから、このようなボランティアに参加していただいた地域の方々に感謝しています。私たちはこのようなボランティア活動から多くの人の役に立つ大切さや美しい環境のありがたさを学びました。これからも、6年生としてボランティア活動など1日に1ついいことをしようと思います。

【6年生:総合的な学習「ふるさとの太平洋戦争(平和学習)」】

講師:松村誠一様



児童の感想（6年生）

○学校の授業もままならず、運動場は畑に変わり、教室は宿舎へ変わるというのが一番心に残りました。その理由は、今、当たり前授業をして、当たり前遊んでいるということが、1つの戦争で全てがなくなるといことが、想像つかないからです。

○男性は戦場の前線へ行って命をかけて戦ったり、女性はカライモ作りや子どもの授業のため教師鍛錬などをしたりして、きつてもやらなければならないというその気力に心を打たれました。そして、その人達が創ってくれた平和な世界を滅ぼさないよう、これからも当たり前だけど当たり前じゃない平和な世の中を創っていききたいです。

【1年生:国語科&生活科&図工科「はたらく車」】

講師:熊本県建設業協会様



教師の感想

迫力のある大きな車を見せていただき、児童の驚きの表情をたくさん見ることができて、教師自身もうれしく感じた。国語「しらせたいな、見せたいな」の学習と関連づけることで、学校で発見したものを家の人に知らせる活動がとても意欲的であった。「つくる部」の方にも丁寧にお話をしていただいたので、児童も真剣に話を聞いている様子が見られ、また、一生懸命質問している様子も見られた。児童に貴重な経験をさせていただいて、とてもありがたかった。

児童の感想(1年生)

大きくてカッコよかった。近くで見ることができてうれしかった。お仕事をがんばっていることが分かって楽しかった。

【4年生:国語科伝統工芸を守る「高瀬絞り」】

講師:高瀬絞り保存会の皆様



教師の感想

国語「世界にほこる和紙」の学習に合わせて高瀬絞り保存会の皆様に来ていただいた。高瀬絞りの歴史を教えていただいたり、疑似体験をさせていただいたりする中で、その美しさや素晴らしさにたくさん気づくことができた。伝統文化を継承していく大切さやその大変さも子供たちに伝わっていた。

児童の感想(年生)

糸の巻き方が複雑ですごいと思いました。機械では同じような模様にしかならないけど、高瀬絞りは手で作るので力加減で模様が変わるから面白いと思いました。手で作ることに意味があることが分かりました。

【水泳監視ボランティア】



【持久走ボランティア】



児童の感想（6年生）

水泳の授業の中で、保護者や地域の方々のボランティアのおかげで誰も事故を起こさずにプールで楽しく学習することができました。持久走の時は、一生懸命走っていると、交差点で車に気が付かないような時もあるけど、見守りをしていただいたので、とても安心して走ることができました。





人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第54号
令和4年1月21日

どこかに春が・・・

冬来たりなば春遠からじ



20日(木)は「大寒」です。「寒の内」のど真ん中。一年で一番寒いとされる時季。昨日(18日)見た雲仙は雪を被っていました。

でも2週間後の2月3日(木)は季節を分ける「節分」です。2月4日(金)は「立春」で「もう春ですよ」ということです。昔は2月を「如月(きさらぎ)」と呼びました。語源は、寒いので「衣更着」。暖かい陽気が増すので「気更来」などと言われています。「きさらぎ」には、草や木が冬の眠りから覚め、命を再生させるという意味の「木更月」という言葉もあるそうです。言葉には、先祖の様々な思いが込められているのですね。

「冬来たりなば春遠からじ」です。「どこかに春が…」と思うと「寒の内」とはいえ、なんだかウキウキしてきませんか。

さて、前回号より、玉名中学校区の活動の様子を2回に分けて紹介しています。

第54号では玉名中学校区**その②**(滑石小、玉名中)の活動の様子を紹介します。

玉名中学校



【読み聞かせボランティア】

毎月1回、「とわの木」の方に読み聞かせをしていただいています。社会状況や生徒に伝えたいことなど、いろいろ検討して選ばれた本を読んで下さっています。生徒の心を育てる大切な時間になっています。



【地域清掃】

「玉中至心プロジェクト」の活動の一つとして、学校周辺の清掃活動を行いました。落ち葉集めが中心の清掃でしたが、30袋以上の落ち葉が集まりました。地域の一員としてこれからも環境美化に努めていきます。



【チーム玉中熟議】

校則改定に向けて生徒、地域の方、保護者、先生で熟議を行いました。それぞれの立場からの考えをたくさん聞くことができました。いただいた意見を参考にし、生徒会を中心に校則改定を進めていきます。



【面接指導】

高校入試・就職試験に向けて面接指導をしていただき、緊張感のある雰囲気の中、たくさんの指導・助言をいただきました。本番でも練習の成果をきっと発揮してくれるはずですよ。



【絵馬奉納】

校区内にある神社に絵馬を奉納しました。今年の干支である虎を、「今年こそみんなが安心して健康に暮らせよう」という願いを込めて描きました。参拝に来られた方にも元気が届けられたらいいです。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



裏面あり

滑石小学校

【学校運営協議会と地域学校協働活動】

コロナ禍のため対面での開催ができていなかった学校運営協議会を、12月に実施しました。地域学校協働活動推進員さんを含めて、今後の地域と学校の活性化について熟議をしました。地域学校協働活動推進員さんが中心となって老人クラブやあすなろ会の活動を調整して小学校における活動を活性化してきたことを確認するとともに、来夏の「滑石ふれあいデー」等で工夫できそうなことのアイディアを共通理解することができました。

今後、滑石校区の地域人材や素材を学校に取り入れた学習を更に工夫するとともに、小学生が地域に出かけて地域活性化につながる活動をより多く取り入れていきます。



【4月の交通教室】

地域の交通指導員の方にも来ていただき、3年生以上には自転車の乗り方を、1、2年生には歩道の歩き方と横断歩道の渡り方を教えていただきました。

滑石校区のことも交えながら、気をつけることを分かりやすく教えていただきました。



【読み聞かせ】

滑石に以前からある「あすなろ会」が中心となって保護者に呼びかけ、第2、第4水曜日を中心に、月に2回程度の読み聞かせをしてくださいます。学年に合わせて内容を工夫してくださるので、子供たちはいつも楽しみにしています。



【昔遊びクラブ(クラブ活動)】

老人クラブの皆さんに、2ヶ月に1回程度、昔ながらの遊びをたくさん教わっています。自転車のリムを使った輪ころがしや竹で手作りして楽しむ水鉄砲、羽子板、けん玉など、毎回たくさんの工夫や技を教わりながら楽しんでいます。



【毎朝の交通安全指導】

地域の安全ボランティアの方や保護者の方、民生委員さん等のご協力で週に一度、朝から交通指導をしています。

下校時の安全パトロールにもご協力いただいています。



【6月のいも苗植え】

老人クラブの皆様の多大なご協力をいただき、毎年1、2年生の生活科の学習で実施しています。お年寄りから教わることに、たくさんのことを学びながら、楽しく活動しています。毎年たくさんのいもを収穫し、みんなの笑顔でいっぱいになります。



【11月のいも掘り】

＝編集後記＝

- ◇ 今回をもちまして、この「事業だより」による各校区の実践紹介を終了します。ご多用の中、情報を提供していただき、誠に有り難うございました。感謝申し上げます。紙面の都合上、各校区のすべての活動を掲載することはできませんでしたが、幾らかでも関係する方々の取り組みの参考になり、且つ市民の皆様にも本事業を知っていただけたら幸いと思い発行してきました。
- ◇ 新型コロナウイルスの感染が止まりません。そして今まさに第6波が押し寄せています。コロナ禍のため活動が制限され、歯痒い思いをされていることは想像に難くありません。その厳しい状況の中、安全安心に留意しながら創意工夫を凝らし活動されている皆様に心より敬意を表します。
- ◇ 今年度の初回号に「**本事業を知っていただく“！そして、力を貸していただく！”**」「**年間計画が必要だ！そして、見通しを持って事業を推進しよう！**」と書いています。今年度もあと2ヶ月ほど。来年度の更なる充実につなげるべく、本部事務局としましても今年度の総括に入ります。各校区におかれましても「**社会に開かれた教育課程**」が具現化され「**学校を核とした地域づくり**」「**地域とともにある学校づくり**」が尚一層進展することを願っております。



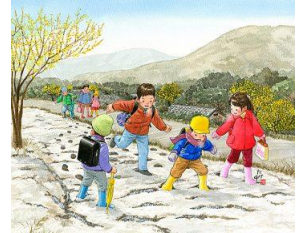
人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第55号
令和4年2月2日

雪とけて 村いっばいの 子どもかな (小林一茶)

この辺りは小林一茶が暮した北信濃ほどの雪は降りませんが、寒さが緩み、春の日を浴びながら子供たちが元気いっぱい遊んでいる様子を思うと心弾みます。活気が満ちてくるようです。ただ、この2年間は雪でなく新型コロナウイルスに行動が制限されてきました。人流も3密も気にすることなく伸び伸びと暮らしたい、マスクをはずして素顔で人と出会い語りたい、そして1日でも早く子供たちの歓声が街に響きますように！そう願っています。



さて、令和3年度は次の2点を掲げてスタートしました。昨年度末に作成した「令和2年度玉名市地域学校協働活動実施報告書」から見えてきた課題でした。

☆本事業を知っていただく！そして、力を貸していただく！
☆年間計画が必要だ！そして、見通しを持って事業を推進しよう！

そして、今年度より市内全小・中学校に学校運営協議会が設置されたことを受け、次のことも呼びかけてきました。各校区の現状はいかがでしょうか？

☆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進しよう！



今年度も終盤を迎えました。「学校と地域との連携・協働状況の確認」の様式をお届けしますので、それぞれの立場で今年度を振り返ってみてください。

	チェック項目	○ △ ×
1	地域と学校がともにビジョンやめざす子供像を共有する熟議等を行っている。	
2	地域連携・協働活動に関する年間計画が作成されている。	
3	教職員が地域連携や協働活動の意義を共有する場がある。(研修や職員会議等)	
4	地域学校協働活動推進員との話し合いや情報共有がなされている。	
5	ボランティアルームの設置や教職員への周知など、ボランティアの活動環境が整っている。	
6	活動が子供たちにとって、体験にとどまらず、ねらいに沿った教育活動になっている。	
7	ボランティア募集や学校の教育活動、ボランティア活動の様子を情報発信している。	
8	活動継続のために、振り返りや情報の蓄積を行うなどチーム体制づくりが行われている。	
9	活動の記録を取りまとめ、次年度の年間計画の見直しに生かしている。	

＝子供は地域の宝です！日本の宝です！＝

「事業だより第53号をコピーして見守りボランティアの方々に配っていいですか？」というお尋ねがありました。勿論OKです。築山小校区で毎朝児童の登校を見守ってくださり、本事業の本部運営委員も務めておられる方からです。話を進めていきますと、学校の先生方との強い信頼関係、子供たちから寄せられる感謝の言葉やお手紙の有り難さと温かい心のつながり、見守り活動をされている他の方々の存在と頑張り・・・そして、最後に「子供は『地域の宝』です。地域で育てていきましょう。そして子供は『日本の宝』です。」と話されました。うれしくなった私は、すぐ校長先生に電話をしました。

…このような波紋が、重なり合い、増幅し、大きなうねりとなっていきますように。

＝年度末総括のお願い＝

2月18日(金)締め切りで、「令和3年度地域学校協働活動実施報告書、地域学校協働活動の取り組みの成果と今後の課題、ボランティアバンク」のデータ送信をお願いしています。ご多用とは存じますが期日までの提出をよろしくお願いいたします。

…今年度の総括が来年度へのスタートです。